オンラインシラバス　高校1年生　インターナショナルコース(SG)

SG　現代の国語 …… 2

SG　言語文化 …… 3

SG　歴史総合 …… 4

SG　数学Ⅰ …… 5

SG　数学A …… 6

SG　科学基礎 …… 7

SG　科学と人間生活 …… 8

SG　英語とコミュニケーションⅠ …… 9

SG　IE Writing …… 10

SG　倫理・表現Ⅰ …… 11

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	現代の国語	SG	3	沖野

到達目標

①現代思想を理解し、その実践として諸現象を思想からのアプローチによって構造的に理解する力を養う。
②文章を多角的に捉えたうえで自分の意見を構築する力を養う。
③表現の機微を敏感に捉える力を育成する。
④要旨や主題を捉え、それに対する自分の意見を持つ訓練を通じて、論文を書く素養を身につける。

授業の進め方・学習方法

解説と読解を中心に進め、適宜問題演習を行うことで理解・考察を深める。
現代文学習における読解力、理解力、知識力をバランスよく鍛えることを意識して授業に臨む。

授業スケジュール

1学期	評論『水の東西』(現代の国語) 小説『羅生門』(言語文化)
1学期中間試験	
1学期	評論『自然と人間の関係をとおして考える』(現代の国語) 評論『他者を理解するということ』(現代の国語)
1学期期末試験	
2学期	評論『言語についての新しい認識』(現代の国語) 演習用教材
2学期中間試験	
2学期	評論『贅沢を取り戻す』(現代の国語) 演習用教材
2学期期末試験	
3学期	評論『白』(現代の国語) 演習用教材
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	平常点は、漢字小テストや語句のテスト、提出物などで算出する。
提出物・小テストなど	20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
『現代の国語』	大修館書店	
『入試漢字コア2800』	桐原書店	
『現代文キーワード読解』	Z会	
『国語便覧』	数研出版	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

自分の力で文章を読み解き、文章に対する自分の意見を構築することを目標として行います。
どんな文章と対峙しても、同じ方法で文章を読み解き、自分のスタンスを決めることができる力を育成していきます。
受動的な受け方ではなく、能動的に吸収しようと努める姿勢を求めます。一緒に頑張りましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	言語文化	SG	3	小森

到達目標

① 古典文法、句形について理解を深め、大学入試問題に対応し得る力を身に付ける。
② 古典常識を学び、読解に活用することができる。
③ 古典の世界に親しみ、現代との違いや共通点を考える。

授業の進め方・学習方法

予習として単語や文法事項を調べ、現代語訳を作成してください。わからなかった部分を解決するという姿勢で授業に臨みましょう。
古典文法の学習については「体系古典文法学習ノート」を活用します。
授業中は「古文単語FORMULA600」「体系古典文法」「漢文必携」を参照しながら進めるので、必ず手元に置いてください。

授業スケジュール

1学期	【古文】『宇治拾遺物語』「絵仏師良秀」文法事項：用言 【漢文】『戦国策』「蛇足」 句形等：再読文字
1学期中間試験	
1学期	【古文】『伊勢物語』「芥川」「あづま下り」 文法事項：助動詞（受身 使役 打消 過去 完了） 【漢文】『十八史略」「鶏鳴狗盗」 句形等：受身・使役
2学期	【古文】『土佐日記』「門出」「帰京」（プリント） 文法事項：助動詞（推量 断定 助動詞総合） 【漢文】演習問題　句形等：疑問 反語
2学期中間試験	
2学期	【古文】『源氏物語』「光源氏の誕生」（プリント） 文法事項：接続助詞 敬語表現 【漢文】漢詩　句形等：詩形・押韻・対句
2学期期末試験	
3学期	【古文】万葉集・古今和歌集・新古今和歌集　　文法事項：和歌の修辞 【漢文】『唐宋八家文読本』「雑説」 句形等：部分否定・全部否定・詠嘆
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験を80%の評価対象とし、残り20%を授業内小テストや課題、授業内の取り組みなどで評価する。
レポート	0～20	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
言語文化	大修館	
古文単語FORMULA600 改訂版	数研出版	
体系古典文法	数研出版	
体系古典文法学習ノート	数研出版	
漢文必携	桐原書店	
プレミアムカラー国語便覧	数研出版	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

今年度の目標は古典(古文・漢文)を読解するために必要な基礎知識を身につけることです。
日々の授業を中心に、予習復習をしっかりと行ってください。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
地理歴史	歴史総合	SG	2	細田

到達目標

昨年度から始まった新たな必修科目としての「歴史総合」の興味を喚起し，学問的興味の裾野を広げるとともに，受験科目としての「歴史総合」さらには「日本史探究」・「世界史探究」も視野に入れ，2年次・3年次に向けた導入も図っていく。取り扱う分野は近現代史を中心とし，学習に際しては史実の理解・整理だけでなく中長期的な影響などの考察も取り入れることで，現代の世界をとりまく協調や対立，格差や偏見といった諸問題の背景について世界史的アプローチを試み，歴史的思考力を養成する。その中で、主体的に歴史を探究する力・俯瞰する力を身につけさせるため「思考力」・「表現力」・「知識」といった力を偏りなく身につけていく。

授業の進め方・学習方法

本校の高校一年生における「歴史総合」は、特に「今年度」と「来年度」においては本校における中学二年生までの歴史の授業の進度を鑑み、現代の世界に直接つながる19世紀末からの歴史を取り扱う。その中で、世界史そして日本史というくくりを取り払い、1つの事象が起こった背景には複雑な国際関係が存在するということを主体的に、理解できるように授業展開していく。そこで，まずはグループ学習を通じ、こちらが指定した時代の中で、それぞれが重要だと思う事象や出来事をピックアップし、自分なりの歴史観を考えてもらう（発表は2学期以降）。その上で講義を通じ、その時代に「いつ」「どこで」「何が」起こったのかに着目し，基礎知識の理解・定着を図っていく。
また「2学期以降」は、グループ学習の結果を踏まえた「各グループ発表」を取り入れる予定である。さらに講義終了後、自分がこれまで考えた歴史観に変化が起こったか。起こったとすればどのようなものだったかを検討し、まとめてもらう予定である。なお，定期考査ではそうした歴史観や自分なりの考察への理解度を図るために資料問題、地図問題、論述問題を積極的に取り入れていく予定である。

授業スケジュール

1学期	（導入）…歴史における史料の活用方法について （講義内容）…19世紀後半の世界史からロシア革命まで １－帝国主義諸国の動向 ２－緊迫する国際関係 ３－第一次世界大戦 ４－ロシア革命とソ連の成立
1学期中間試験（実施せず）	
1学期	（導入）…第一次世界大戦後（1918年～1927年）の十年間の日本社会がどのように推移・変化していったか。 ※導入の内容は変更になる場合があります。 （講義内容）…第一次世界大戦の終結と戦間期のヨーロッパとアメリカ ５－第一次世界大戦の終結と講和条約 ６－ヨーロッパの没落とアメリカの台頭 ７－アメリカ主導の秩序形成 ８－第一次世界大戦後のアジア
1学期期末試験	
2学期	（導入）…・世界恐慌以降（1929年～1938年）の十年間の日本社会がどのように推移・変化していったか。 ※導入の内容は変更になる場合があります。 （講義内容）…世界恐慌前後の世界の情勢 ９－中国の民族運動と日本の対外進出 10－ファシズムの台頭 11－アメリカ経済の破綻と世界恐慌 12－ブロック経済とソ連の動向
2学期中間試験	
2学期	（導入）…第二次世界大戦がそれまでの戦争とどのように違うか。日本が有史以来、参加した国際戦争との比較。 ※導入の内容は変更になる場合があります。 （講義内容）…ナチ党の台頭～日中戦争まで 13－ドイツにおけるナチ党の推移と台頭 14－ファシズムへの警戒とスペイン内戦 15－満州事変の前後における日本 16－日中戦争の勃発と長期化
2学期期末試験	
3学期	（導入）…第三次世界大戦を防止するための枠組みとその現状について ※導入の内容は変更になる場合があります。 （講義内容）…第二次世界大戦勃発から終結まで 17－ドイツの領土拡大と第二次世界大戦の勃発 18－第二次世界大戦の過程 19－第二次世界大戦における日本の動向と大戦終結の過程 20－第二次世界大戦後の国際秩序とブレトンウッズ体制 ※時間に余裕があれば、冷戦の内容に踏み込んでいく予定です。
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験のみならず，授業内で実施する小テスト（基本的に各考査前一回），ワークシートやレポート、さらに発表への取り組みを基に総合的に判断する。
レポート	～20	
小テストなど	～20	
授業での取り組み	～20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
歴史総合		帝国書院

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

近代以降の歴史は、私たちが生きる現代社会の形成に今なお多大な影響を与え続けています。19世紀以降の歴史は、単に入試・受験科目として学ぶものではなく、今を生きる人類の一員として身につけなければいけない一般常識といっても過言ではありません。また日本のみならず国際社会で活躍していくことが見越される本学の生徒にとっては、持ち合わさなければいけない最低限の教養が必須なものとなっていきますが、近代史以降の歴史は、まさにそうした最低限の教養の一つにあたるのではないでしょうか。その教養を主体的に学び取っていくためにも能動的に授業に取り組んでくれることを期待しています。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学Ⅰ	SG	4	高橋

到達目標

数学により表現された言語や事柄を正しく認識し、それをもとに思考する力、適切に表現する力を育てる。
また、このことの前提となる基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を希求し、主体的に取り組む姿勢を身につける

授業の進め方・学習方法

基礎の確認・応用にかかわる手法については教科書を活用して講義形式で行う。
また、演習の時間を確保し、この学習方法を確立するための取り組みを行っていく。
その中で生徒同士で自由に議論を行い、問題解決に対するアプローチや情報共有に充てることで、理解を深める機会を設けることもある。

授業スケジュール

1学期	数学Ⅰ 第1章　数と式 　第1節　多項式 　　多項式とその加法・減法 　　多項式の乗法 　　因数分解 　第2節　実数 　　実数 　　根号を含む式の計算 　第3節　1次不等式 　　不等式の基本性質 　　不等式とその解 　　絶対値を含む方程式・不等式 第2章　2次関数 　第1節　関数とグラフ 　　関数 　　2次関数のグラフ 　　2次関数の決定 　第2節　2次関数の最大・最小 　　2次関数の最大・最小 　　最大・最小の応用
1学期中間試験	
1学期	第3節　2次関数の方程式・不等式 　　2次方程式 　　2次関数のグラフとx軸の共有店 　　2次不等式とその解 第3章　集合と命題 　第1節　集合と命題 　　集合 　　命題と集合 　　逆・裏・待遇
1学期期末試験	
2学期	第4章　図形と計量 　第1節　鋭角の三角比 　　直角三角形を用いた三角比の定義 　　三角比の相互関係 　第2節　三角比の拡張 　　半円と座標を用いた三角比の定義 　　三角比の相互関係 　第3節　正弦定理と余弦定理 　　正弦定理 　　余弦定理 　第4節　図形の計量 　　図形の面積 　　図形の計量 数学Ⅱ 第1章　式と証明・高次方程式 　第1節　多項式の乗法・除法と分数式 　　3次の乗法公式と因数分解 　　二項定理 　　多項式の除法 　　分数式の計算
2学期中間試験	
2学期	第2節　式と証明 　　恒等式 　　等式の証明 　　不等式の証明 　第3節　高次方程式 　　複素数 　　2次方程式の解と判別式 　　2次方程式の解と係数の関係 　　剰余の定理と因数分解 第2章　図形と方程式 　第1節　点と直線 　　直線上の点 　　平面上の点 　　直線の方程式 　　2直線の関係
2学期期末試験	
3学期	第2節　円と直線 　　円の方程式 　　円と直線 　第3節　軌跡と領域 　　軌跡 　　不等式の表す領域
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の割合を80% 課題テスト・提出物・授業態度を平常点に換算して20% 合わせて100%として評価する
レポート	0	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
深進　数学Ⅰ	啓林館	
深進　数学Ⅱ	啓林館	
Grasp 数学Ⅰ＋A　問題集	啓林館	
Grasp 数学Ⅱ　　問題集	啓林館	
Focus Gold 数学Ⅰ+A	啓林館	
Focus Gold 数学Ⅱ	啓林館	

担当者からのアドバイス

高校で学習する数学は中学で学習した数学をもちに、いろいろな立場から考えるためのルールの拡張を行っていきます。
不安に感じる人もいるかもしれませんが、必要な手順を踏んでいけば誰でも理解が進むようにできています。日々できることを増やし、進化し続ける姿勢が大切です。その姿勢が確立され、数学の基礎が身に付きはじめると、一つのも問題に対して様々なアプローチを考えていくことができるようになっていきます。それが「高校数学の楽しみ方」になっていくように日墓の学びを大切にしていきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学A	SG	3	中田

到達目標

数学の解法を美しいと思える感性を養い、正しく思考し、それを的確に表現する力を身に付ける。
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを前提に、主体的に授業に参加する態度を養成する。

授業の進め方・学習方法

講義と演習の時間をとり、学習の方法を身に着けていく。
また、同じ講義を受ける仲間と問題に対するアプローチや理解を深めていく。

授業スケジュール

1学期	深進　数学A 【第1章】場合の数と確率 　序説　集合 　第1節　場合の数 　第2節　順列・組み合わせ
1学期中間試験	
1学期	第3節　確率とその基本性質 　第4節　いろいろな確率
1学期期末試験	
2学期	深進　数学Ⅰ 【第5章】データの分析 　第1節　データの整理と分析 　第2節　統計的探究プロセス 深進　数学B 【第2章】統計的な推測 　第1節　確率分布
2学期中間試験	
2学期	第2節　正規分布 　第3節　区間推定と仮説検定
2学期期末試験	
3学期	深進　数学A 【第2章】 図形の性質 　第1節　三角形の性質 　第2節　円の性質 　第3節　作図 　第4章　空間図形
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の割合が80%、課題試験の結果・小テストの結果・宿題の提出状況の割合が20%、合わせて100%として評価する
レポート	0～20	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
深進　数学Ⅰ・A・B	啓林館	それぞれ別の教科書となります。数学Bは今後配布いたします
Grasp　数学Ⅰ＋A	啓林館	
Grasp　数学Ⅱ＋B	啓林館	
Forcus　Gold数学Ⅰ＋A	啓林館	
Forcus　Gold数学Ⅱ＋B	啓林館	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

高校の数学は学習する内容が中学数学よりも断然多くなります。その分授業進度も早くなります。
日頃よりの復習などをしっかりと行い、頑張っていきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	化学基礎	SG	2	古屋

到達目標

原子の構造や化学の理論に関する基本的な概念を理解し，反応や法則を暗記に留まることなく考察する能力を養う。また，これらを日常生活や社会と関連付けて学習内容を深化させ，科学的に探究する。

授業の進め方・学習方法

授業は教科書の内容を基に，一部「化学」の内容を先取りして扱います。厚みのある学力を養うためには，授業で学んだ内容を復習することが大切です。必要に応じて学習内容の定着度を小テストで確認します。

授業スケジュール

1学期	【第1部　物質の構成】 ２章　物質の構成粒子 ３章　化学結合
1学期中間試験	
1学期	【第2部　物質の変化】 １章　物質量と化学反応式
1学期期末試験	
2学期	【第2部　物質の変化】 １章　物質量と化学反応式 ３章　酸化還元反応
2学期中間試験	
2学期	【第2部　物質の変化】 ３章　酸化還元反応
2学期期末試験	
3学期	【第2部　物質の変化】 ２章　酸と塩基
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の結果を主として、授業・実験の取り組みや小テストを加味する。
レポート	0～20	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
i版　化学基礎	啓林館	
フォトサイエンス 化学図録	数研出版	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

1年を通して化学の本質を学びながら基礎学力の養成をします。元素記号や反応式をただ暗記するだけでなく，原理まで掘り下げて考えることで理解を深めていきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	科学と人間生活	SG	2	井上・佐藤

到達目標

中学理科で身に着けた基本知識を軸に現代の科学・技術に興味関心を強く持つための科学リテラシーを習得する。
また、理科高校2年時の物理・生物の選択の前に各分野の基本的な知識を身につけ、大学受験に向けた下準備を行う。

授業の進め方・学習方法

主に生物と物理において大学入試を意識した基礎学力の定着を目的とした内容を扱います。
授業では、板書・ICT機器を併用して進めていきます。
問題演習に自主的に取り組むことで、高2高3時に大きなアドバンテージになるので、日々の学習計画を明確にし、取り組んでください。

授業スケジュール

1学期	【生物基礎】 第1章　生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 第2章　遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体の構造 2. 遺伝情報の複製と分配
1学期中間試験は実施しない	
1学期	【生物基礎】 第2章　遺伝子とその働き 3. 遺伝情報とタンパク質の合成
1学期期末試験	
2学期	第1編　力と運動 第1章　運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動（水平投射・斜方投射含む） 第2章　運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあいとその運動 3. 運動の法則
2学期中間試験は実施しない	
2学期	第1編　力と運動 第2章　運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 6. 剛体にかかる力のつり合い
2学期期末試験	
3学期	・1・2学期の復習 ・課題研究
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の結果に加えて、小テスト、レポートや課題の提出状況、プレゼンテーション、授業への取り組みなどを総合的に評価。
レポート	0～20	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
科学と人間生活	啓林館	
新課程　リードα物理基礎	数研出版	
新課程　リードα生物基礎	数研出版	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

私たちの身のまわりの自然科学について多角的な視点があることを学んでほしいと思います。
物理・化学・生物・地学と分けられたジャンルが結び付く面白さを味わえるように、常に考える姿勢を大切にし、先人たちが築いてきた知識を吸収していきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
英語	英語コミュⅠ	SG	3	伊藤

到達目標
この科目では、教科書の英文を読み取ったり聞き取る活動 Reading、Listening を基に、その内容を学習した文法事項や表現を用いて Speaking (発表とやり取り) や Writing の活動につなげる。4技能5領域で CEFR-J B1.1 レベル以上の力を育成することを目標とする。

授業の進め方・学習方法
SGでは、英語の徹底した基礎力を固めるとともに、英語を使う力を鍛えます。 ①最初の授業でレッスン全体を通読し、簡単な質問に答える(個人→ペア→クラス)ことで概要把握をする。【自律と共生】②教師作成の「予習シート」、サブノートで既習事項の確認と内容理解のための土台を築くとともに、単語調べをする。【自律】③授業の帯活動で予習シートの単語をペアまたはグループで練習し定着をはかる。【共生】④本文の内容理解を中心にリスニング、リテリング、ライティング、文法練習や予習シートの答え合わせの活動を行なう。先生の説明を受身で聞くというよりも、協力しながら自分たちの力で解答できるように指導する。【共生と主体的な学び】⑤文法については、受身の学習にならないように授業では「導入」レベルにとどめ「自分でまとめる」主体的学習を促す。【自律】⑥個人、ペア、グループ、クラスでの音読を重視し学習事項の内在化をはかるとともに、学んだ事を「表現する機会 (アウトプット)」を与えることで使う中での定着をはかる。【思考・判断力・表現力の育成】

授業スケジュール	
1学期	Lesson 1 Intercultural relationships Lesson 2 Love beyond Species ユメリス Unit 1-4
1学期中間試験	
1学期	Lesson 2 Love beyond Species Lesson 3 Contributing to Our Planet ユメリス Unit 5-8
1学期中間試験	
夏休み	Further Reading 1
2学期	Lesson 4 Messages for World Peace Lesson 5 Respecting Each Other ユメリス Unit 9-12
2学期中間試験	
2学期	Lesson 5 Respecting Each Other Lesson 6 Langauge and Culture ユメリス Unit 13-16
2学期期末試験	
冬休み	Further Reading 2
3学期	Lesson 7 Technologiy and Discoveries Lesson 8 Standing Up for Human Rights　ユメリス Unit 17-20
学年末試験	
春休み	Speed Reading

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	ペーパーテスト (定期考査や課題テスト) だけでなく、予習シート、文法調べ学習レポート、ライティング作品、単語テスト、パフォーマンステストなど、多面的な評価を行ないます。
レポート	0～20	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材		
書名	出版社	備考
ELEMENT English Communication Ⅰ	啓林館	
ELEMENT English Communication Ⅰ　サブノート	啓林館	全部は扱いません。授業で適宜使用します。
ELEMENT English Communication Ⅰ　Work Book	啓林館	中文問題のみ、定期試験で応用問題として出題します。

参考書			
書名	著者	出版社	備考
キクタン		(株) アルク	定期的な小テストを行なう。
ユメリス	木村達哉	(株) アルク	定期試験に含める。
Ultimate		啓林館	文法の参考書、適宜使用
Vintage		いいずな書店	英文法・語法の問題集、適宜使用

担当者からのアドバイス
語学では「毎日の積み重ね」と「読む」だけでなく「聞く」、「話す」、「書く」のバランスも大切になります。もちろん「単語を覚える」ことも語学の基礎として重要です。従って、才能や能力というよりも「地道な努力を続けられる精神力」と「試行錯誤してコツをつかむ工夫」があれば、誰でも英語を習得することが可能です。さあ、英語という世界へのパスポートを手に入れてください。あなたの未来の可能性がきっと広がるはずです。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
英語	IE Writing	SG	1hr/week	Kris Bear

到達目標

The course objective is to apply different facets of the students' English learning in an integrated way, with a heavier focus on writing. This class will help develop writing, reading comprehension and critical thinking skills. By studying in an all-English environment, listening and speaking skills will also be improved. The nature of the course content will also help to further develop vocabulary and note taking skills.

授業の進め方・学習方法

Students will study and produce writing in an all-English environment. Classes are conducted once a week with weekly assignments that students will write, review, and edit, mostly outside of class. Activities in class will be content driven, focusing on specific ways to improve writing in addition to individual research and study activities.
There is no exam in this class. Assessment will be made through written assignments and homework.

授業スケジュール

1学期	This term's topic focus is writing about yourself. We will study how to properly express information in written English using well-composed paragraphs. Writing topics for this term may include, but are not limited to: * A deeper self-introduction * An introduction of another person
2学期	"This term's topic focus is writing about a topic logically. It is important to know how to properly explain an idea, make it interesting for the reader and to convince them to gree. We will be looking at techniques to make the reader interested and want to read more. We will also explore some methods for combining information to write more complex entences. Transitional phrases and specific vocabulary related to displaying contrast and similarity will also be studied. Writing topics for this term may include, but are not limited to: * Writing about personal experience * Comparing and contrasting two aspects and concluding which is best
3学期	The last term's topic focus is persuasive writing. We will be looking at signal words for listing information, adding extra information and indicating cause and effect. There will lso be a year-review test in this semester to assess the students' comprehension of the things we have studied throughout the year. Writing topics for this term may include, but are not limited to * Writing about advantages and disadvantages
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験		Assements will be based on course work and writing assignments: Assignment 1: 40% Assignment 2: 40% Coursework: 20%
レポート	80%	
小テストなど		
授業での取り組み	20%	

教科書・教材

書名	出版社	備考
Write Away Right Away	EFL Press	Second Edition

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

For all essays, you will receive a rubric. This rubric expresses the goals of the activity and should be used as a guide to focus your essay.

You are strongly encouraged to review your work multiple times in order to improve your writing. As the tasks become more complex and more demanding, students who fail to self-reflect during the course will suffer academically.

We will be doing lots of writing, reading, and discussion. Please come to class prepared and willing to participate.

教科	科目	コース	授業時間	担当者
英語	論理・表現Ⅰ	SG	4	佐野

到達目標

生徒が主体的に学習に取り組むことで、4技能の基礎を築き応用につなげる。Listening: 英語を聞きながら、その概要を把握することができるようになる。リスニングの中で、最も大事な箇所をつかむことができるようになる。Speaking: 正しい発音で、適宜、抑揚をつけながら、相手に伝わる英語を話すことができるようになる。 Reading: 英文を読みながらKey sentences (words) を見つけることができるようになる。Writing: Topicに対し、主題、本題、結論を書くことができるようになる。論理的な英文を書く習慣を身に着ける。

授業の進め方・学習方法

①Introduction：教科書 'Model Conversation' の音声をスクリプトを見ずに聞く。キーワードをメモし、内容把握のために必要な情報を掴む。②Short Lecture & Group Work: 教科書 'Example Bank'を活用し、文法の概要を把握する。その後、グループ内で話し合い、課題を解き、文法事項の理解を図る。③Practice: Workbook を解き、文法の定着を図る。生徒間で学びあい、「自律と共生」の精神を育む。自宅学習では、Workbook、Vintage、Ulmimateを用いる。

授業スケジュール

1学期	教科書 Vision Quest Ⅰ：Lesson 1, 2 Workbook: Lesson 1, 2 Vintage: Lesson 1, 2 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 1, 2 補助教材
1学期中間試験	
1学期	教科書 Vision Quest Ⅰ：Lesson 3, 4 Workbook: Lesson 3, 4 Vintage: Lesson 3, 4 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 3, 4 補助教材
1学期期末試験	
2学期	教科書 Vision Quest Ⅰ：Lesson 5, 6 Workbook: Lesson 5, 6 Vintage: Lesson 5, 6 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 5, 6 補助教材
2学期中間試験	
2学期	教科書 Vision Quest Ⅰ：Lesson 7, 8 Workbook: Lesson 7, 8 Vintage: Lesson 7, 8 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 7, 8 補助教材
2学期期末試験	
3学期	教科書 Vision Quest Ⅰ：Lesson 9, 10 Workbook: Lesson 9, 10 Vintage: Lesson 9, 10 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 9, 10 補助教材
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験（中間＆期末）80% 平常点（H.W.、授業内課題等）20%
レポート	0～20	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
Advanced Vsion Quest English and Expression Ⅰ	啓林館	
Advanced Vsion Quest Ⅰ WORKBOOK	啓林館	
Vintage	いいずな書店	

参考書

書名	著者	出版社	備考
Ultimate	野村 恵造	啓林館	

担当者からのアドバイス

生徒間の学びあいを中心に授業を進めていくため、主体的な学習態度が必須である。生徒は、授業の中で常に問題意識を持つように心がけ、課題の解決のために他者と協力して学ぶ習慣を身に着けるようにする。宿題はWORKBOOK中心になるが、期限内に提出するために、計画性を持つことが大事である。